

東濃農林事務所の普及活動状況

令和8年5月

多様な主体の参画促進

■直売所・きなあつ瑞浪出荷者協議会

アグリパーク重点推進モデルとして新規出荷者確保に取り組む

5月12日（火）、瑞浪市総合文化センターできなあつ瑞浪出荷者協議会第16回通常総会が開催され、生産者等50名が出席した。協議会は平成23年に発足し、会員数は200名強である。減少傾向であった販売額が令和7年度は前年を上回るなど順調に推移しているが、会員の高齢化が進んでいる。将来の新規出荷者確保のため、瑞浪市、農業委員会、JAとうと、きなあつ瑞浪、協議会の5団体で「みずなみ農ある暮らし実行委員会」を設置し、「アグリスタートアップサイクル事業」に取り組んでいくため、アグリパーク重点推進モデルに応募し、採択された。

総会では、令和8年度の活動計画等が承認され、アグリパーク重点推進モデルとして、関係機関と連携し、新規出荷者の確保に向けた取り組みを行っていくこととなった。

農業普及課は、実行委員会のオブザーバーとして活動を支援し、新規出荷者の確保、協議会の出荷拡大とアグリパーク構想の具現化に向けた取り組みを支援していく。

また、総会后、野菜栽培の高温対策の研修会が開催され、農業普及課から、高温対策ではできることから取り組みを開始し、熱中症対策により生産者自らの体調に留意するよう説明した。



【通常総会の状況】



【研修会の状況】

安心できる農畜産業と農村の環境整備

■ブルーベリー・（有）甘原ええのお

ブルーベリーの高温対策調査を実施

5月7日（木）、農業普及課は（有）甘原ええのおのブルーベリーポット栽培において、高温対策の現地実証を開始した。

平成16年、同法人はブルーベリーの観光農園を開園したが、近年の夏季高温による生育不良等により令和6年に一旦閉鎖し、高温対策として同年にポット栽培を導入した。

初年度の令和7年は、高温により苗の枯死が発生し、農業普及課は相談を受けた。導入2年目の令和8年は、ポット内の高温による生育不良を改善していくため、ポットをタイベックで被覆し、ポット内地温を低下させ、生育改善する実証を提案した。

農業普及課は、生育調査および白色、黒色ポットの地温の調査を行い、ブルーベリーの高温対策技術を確立していく。



【ポット栽培のブルーベリー】